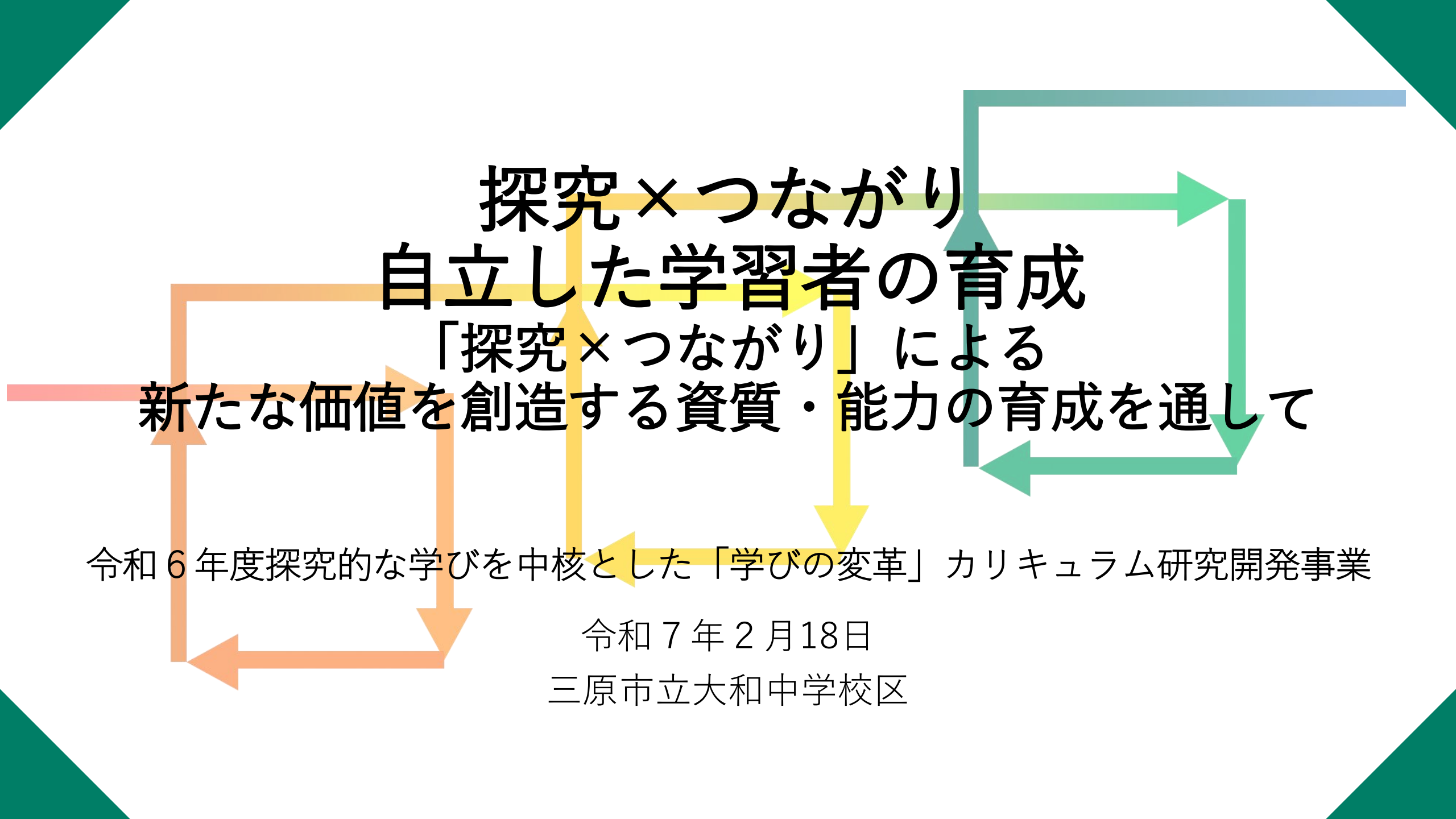




探究×つながり 自立した学習者の育成 「探究×つながり」による 新たな価値を創造する資質・能力の育成を通して

令和6年度探究的な学びを中核とした「学びの変革」カリキュラム研究開発事業

令和7年2月18日
三原市立大和中学校区

本日知っていただきたいこと

01 研究背景

02 実践事例

03 研究の成果と課題

04 今後の改善方策等

研究背景

自立した学習者の育成

「探究×つながり」による
新たな価値を創造する資質・能力の育成を通して

社会的・職業的
自立

自立した学習者

探究的な学びを中核とした
カリキュラム

(大学・専門学校等)

高等学校

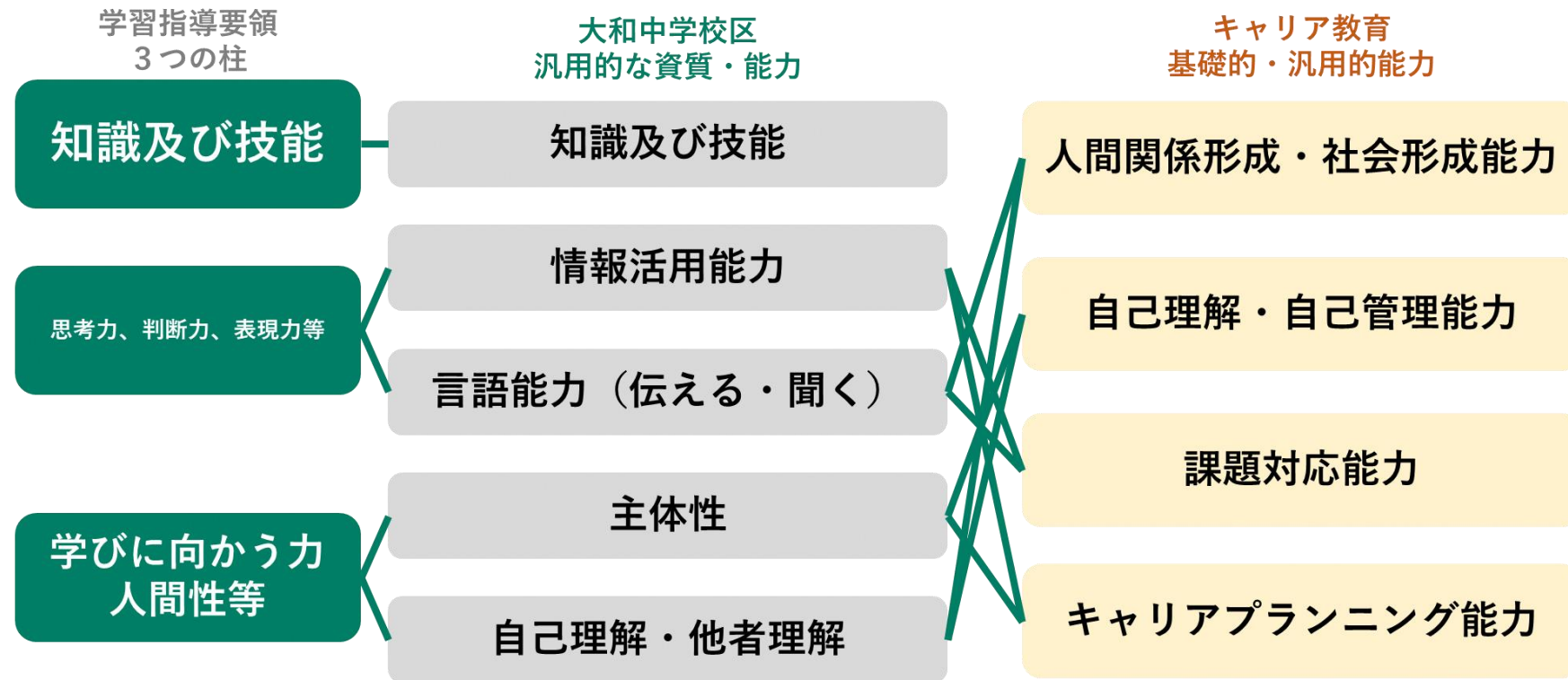
中学校

小学校

(幼児教育)

自立した学習者とは

課題の解決に向けて自分で考え、自分から取り組んでいる児童・生徒であり、本中学校区が育成を目指す資質・能力が身に付いた姿である。



实践事例

資質・能力のカリマネ

大和中学校区で育成を目指す資質・能力 R 3～（キャリア教育指定事業）

学習指導要領
3つの柱

大和中学校区
汎用的な資質・能力

キャリア教育
基礎的・汎用的能力

知識及び技能

知識及び技能

思考力、判断力、表現力等

情報活用能力

言語能力（伝える・聞く）

学びに向かう力
人間性等

主体性

自己理解・他者理解

人間関係形成・社会形成能力

自己理解・自己管理能力

課題対応能力

キャリアプランニング能力

大和中学校区で育成を目指す資質・能力 R 7～（探究的な学び指定事業）

学習指導要領
3つの柱

大和中学校区
汎用的な資質・能力

キャリア教育
基礎的・汎用的能力

知識及び技能

知識及び技能

思考力、判断力、表現力等

情報活用能力

言語能力（伝える・聞く）

学びに向かう力
人間性等

主体性・協働性

自己理解・他者理解

人間関係形成・社会形成能力

自己理解・自己管理能力

課題対応能力

キャリアプランニング能力

ループリックの改訂点

【変更項目】

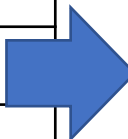
情報活用能力、主体性・協働性、自己理解・他者理解

【変更内容】

- ・評価基準を4段階（1～4）から3段階（A B C）に変更
- ・学年区分を4段階から3段階に変更（学年構成も変更）
- ・生徒の目指す姿に関する記述内容も変更

総合的な学習の時間、生活科を軸に作成

	小1・小2	小3・4	小5・小6・中1	中2・中3
4				
3				
2				
1				



	小1・小2	小3・4・小5・ 小6・中1・中2	中3
A			
B	生活科	総合的な学習の時間	
C			

ループリックの考え方

A 高等学校

B 小学校・中学校

C Bを満たさない



情報活用能力

「総合的な学習の時間指導と評価の一体化」を基に作成。
各学年に、情報の収集と整理・分析の両方が入る形。情報の収集を優先する。

	小1・2	小3・4・5・6・中1・2	中3
A	生活科を基に今後作成予定	情報を効率的に収集する手段を選択することができ、異なる情報の共通点や差異点を見付け、関係や傾向を明らかにすることができる。 中(小)学校	多様で効率的に情報を収集することができ、異なる情報の共通点や差異点を見付け、関係や傾向を明らかにすることができる。 中学校 高等学校
B	生活科を基に今後作成予定	情報を効率的に収集する手段を選択することができ、異なる情報の共通点や差異点を見付けることができる。	情報を効率的に収集する手段を選択することができ、異なる情報の共通点や差異点を見付け、関係や傾向を明らかにすることができる。 中(小)学校
C	生活科を基に今後作成予定	情報を収集する手段をあげることができ、異なる情報の共通点や差異点を見つけることができる。	情報を効率的に収集する手段を選択することができ、異なる情報の共通点や差異点を見付けることができる。

教科横断的な視点

情報活用能力

情報の収集

インターネット、図書館、
配布物、インタビュー・・・

整理・分析

時系列、地図、グラフ化、
テキストマイニング、KJ法・・・

各教科

総合的な学習の時間

情報活用能力（整理・分析）に絞った経緯

- ・ これからの社会において人間に求められる資質・能力とは何か、人間が学ぶとはどういうことか、その中で学校はどのような役割を果たすべきかといったことについて、近年、一層社会の関心が高まっている。その背景には人口減少をはじめ様々なものがあると考えられるが、例えば、加速度的に速くなる社会の変化や、そうした社会変化の基礎となっている情報技術の進展、中でも大量の情報から瞬時に情報をまとめたり分析したりすることができる生成 AI の出現・発展等がある。

○このうち特に情報活用能力については、生成 AI の加速度的発展により Society5.0 のリアリティが増す中、教育課程全体での扱いに加え、各教科等を通じた具体的な充実方策も併せて検討すべき。その際、情報活用能力の向上とそれによる探究的な学びの充実を一体的に考えていくべき。

「情報の収集」「整理・分析」の事例

	事例
1	インターネットで情報を収集する
2	図書館や図書室で情報を収集する
3	配布物から情報を収集する
4	個人インタビューで情報を収集する
5	電話で情報を収集する
6	リモートインタビューから情報を収集する
7	フリップボードで情報を収集する
8	街頭インタビューで不特定多数から情報を収集する
9	イベント・講演会に参加して情報を収集する
10	アンケート調査で情報を収集する
11	WEBアンケート作成ツールを活用して情報を収集する
12	観察・実験を通して必要な情報を収集する
13	ファクシミリ（FAX）で情報を収集する
14	電子メールで情報を収集する
15	手紙で情報を収集する
16	学級や学年など集団で情報を集積し、共有する
17	形式をそろえて情報を収集する
18	その他の方法で情報を収集する

	事例
1	時系列で整理・分析する
2	地図を用いて整理・分析する
3	グラフ化して整理・分析する
4	テキストマイニングで整理・分析する
5	統計的手法を用いて整理・分析する
6	KJ法的な手法を用いて整理・分析する
7	コンセプトマップを用いて整理・分析する
8	ベン図を用いて整理・分析する
9	XチャートやYチャートで整理・分析する
10	メリット・デメリットの視点で整理・分析する
11	ビフォー・アフターの視点で整理・分析する
12	SWOT分析で整理・分析する
13	ランキング表を用いて整理・分析する
14	ロジックツリーを用いて構造化しながら整理・分析する
15	フィッシュボーン（特定要因図）で整理・分析する
16	座標軸を用いて整理・分析する
17	クラゲチャートを用いて整理・分析する
18	KWLシートを用いて整理・分析する
19	ピラミッドチャートを用いて具体化（個別化、分解）しながら整理・分析する
20	ピラミッドチャートを用いて抽象化（一般化、統合）しながら整理・分析する
21	その他の方法で整理・分析する

成果物

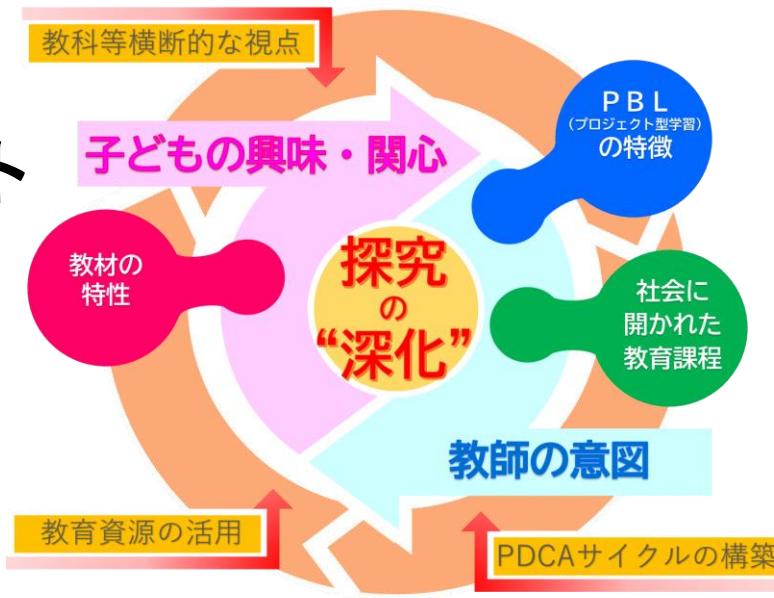
カリキュラム・マネジメント

カリキュラム・マネジメント

①教科横断的な視点

②教育資源の活用

③PDCAサイクルの構築



中学校1年生 総合的な学習の時間を中核とした情報活用能力の育成カリキュラム												
単元名	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
内容	商品開発【15時間】 ・今年のテーマは地域産物、大和町のためにどんなことをして実践していきたいかな？ ・大和町が盛り上がった状態とは？ ・どんなに大和町や米粉のことを知ってもらいたいか？ ・どんな商品が手に取ってもらえるのかな？				プレイベントの実施【25時間】 ・販売イベントに向けて、どんな準備をすればよいかな？ ・やった方がよいけど、自分たちでは難しいから専門家の協力が必要な準備はどれかな？ ・イベントにむけて、アドバイスをもらうためにプレイベント参加者にどんな視点で参加してもらえばよいかな？				イベント実施【10時間】 ・プレイベントを受けて、本番で米粉や大和町のことをどうすればもっと伝えられるかな？ ・大和町は盛り上がったの？ ・この学習を通して、自分たちが成長した部分は？ ・この学習でやり残したことは？			
知能					2.米粉の魅力を発信活動(商品開発、商品販売イベント)後、目的や対象に応じた適切な発信している。				1.大和町の魅力発信の要領には、そこに存在する問題の解決に向けて、学校や地域が目的を共有して取り組むことの必要性を理解している。 2.大和町が抱える課題に対する学習と地域の取組についての理解は、探究的に学習してきたことの成果であることに集約されている。			
思考力	2.商品開発に必要な情報収集する手段を選別し、情報に合わせて情報を選択している。 3.アンケート結果および米粉の特徴から傾向を明らかにし、情報をもとにグループと商品のジャンルを設定している。 4.販売アンケート結果および米粉の特徴と意見(自分たちの商品に対する考え)を整理して伝えられている。				2-1大和町を盛り上げるための商品販売イベントに向けて何をするべきか見通しをもつ計画を立てている。				2-1プレイベントの反省を踏まえ、商品販売イベントに向けて必要なことを設定している。			
主体的	2-2大和町の魅力を発信するための商品開発で他者の考えを取り入れて尊重しようとしている。 2-3自分の長きを生かしながら協力してグループの課題の解決に取り組んでいる。				2-1商品販売イベントに向けて、自分の長きを生かせる課題を選択し、取り組んでいる。				2-1活動振り返り、自分の特徴や長さを理解しようとしている。 2-2自分も大和町の課題解決に向けて、自分のできることに取り組もうとしている。			
国語												
社会												
数学												
理科												
音楽												
美術												
保健体育												
外国語												
情報												
技術												
家庭												
英語												
道徳												

三原市立大和中学校区で育成を目指す情報活用能力(整理・分析)に関する各教科の具体例
～技術・家庭科(技術分野)～

学 年
中学校1年生
単 元(題 材)
生物育成の技術
内容
B(2)ア 安全・適切な栽培又は飼育、検査等ができること。
B(2)イ 問題を見いだして課題を設定し、育成環境の調節方法を構想して育成計画を立てるとともに、栽培又は飼育の過程や結果の評価、改善及び修正について考えること。
見方・考え方 (https://www.pref.hiroshima.lg.jp/uploaded/attachment/479223.pdf 広島県教育委員会作成資料より)
生活や社会における事象を、技術との関わりからの視点で捉え、社会からの要求、安全性、環境負荷や経済性等に着目して技術を最適化すること
整理・分析の型
10 メリット・デメリットの視点で整理・分析する
学習目標
道具・材料の特徴を整理し、自分の栽培目標を達成するために折り合いをつけて最適な物を選択することができる。

誘引の紐・肥料の選択肢のメリット(○)・デメリット(×、△)				
	社会	安全	環境	経済
ワイヤー入りビニール組	○作業がしやすい		△繰り返し利用できるが、外れた場合土に落ちることができない。	○中学校と共通であるため、観念を共有。
麻紐	△作業がしづらい		○外れても土に落ちることができない。	
有機質肥料	○ゆっくり長く効く ×自作できる ×速効性はない ×匂いがある。	○オーガニック野菜を栽培できる。	○天然由来であるため。	
化学肥料	○素早く効く ×効果が続く期間が短い ○匂いがない。			

上記のような、表を作成し、栽培目標を達成するために折り合いをつけて最適な物を選択する。

カリキュラム・マネジメントマップ

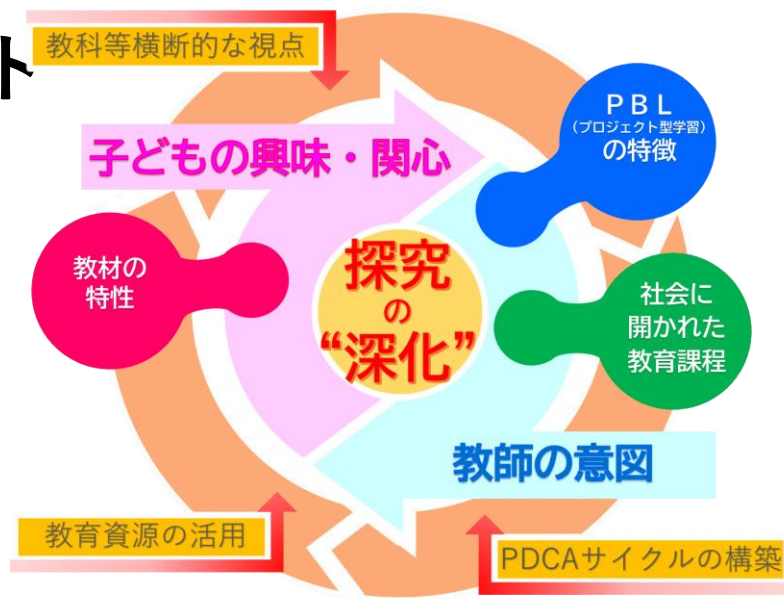
情報活用能力に関する各教科の具体例

教育資源のカリマネ

カリキュラム・マネジメント

- ①教科横断的な視点
- ②教育資源の活用
- ③PDCAサイクルの構築

成果物



カリキュラム・マネジメント

大和中学校区単元構想シート

学年	中学校1年生	テーマ	地域創成	学習形態	学年総合・一部課題選択
単元名	米粉の商品開発を通して、大和町の魅力をたくさんの人に知ってもらい、大和町を盛り上げよう				
本質的な問い	「自分たちは大和町とどのように関わっていけば良いのか？」				
単元を終えた後の児童・生徒の姿	自ら課題を設定できるようになり、次なる課題解決に向けて、自ら探究する術を身に付けている。				
単元を始める前の児童・生徒の姿	地域の課題を解決したいという意欲はあるが、課題を自ら設定することが難しい。				

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
【①知識】 大和町の魅力発信の実現には、そこに存在する課題の解決に向けて、学校や地域が目的を共有して取り組むことの必要性を理解している。 【②理解】 米粉の魅力の発信活動（商品開発、商品販売イベント）を、目的や対象に応じた適切で実施している。 【③探究的な学習のよさの理解】 大和町が抱える課題に対する学校と地域の取組についての理解は、探究的に学習してきたことの成果であることに気付いている。	【④-1 課題の設定】 ブレインの反省を踏まえ、商品販売イベントに向けて必要なことを設定している。 【④-2 課題の設定】 大和町を盛り上げるための商品販売イベントに向けて何をすべきかを見通しをもって計画を立てている。 【⑤情報の収集】 商品開発に必要な情報を収集する手段を選択し、情報に合わせて情報を整理・分析している。 【⑥整理・分析】 アンケート結果および米粉の特徴から傾向を明らかにし、根拠をもってターゲットと商品のジャンルを設定している。 【⑦まとめ・表現】 集めたアンケート結果および米粉の特徴と意見（自分たちの取組に対する考え）を区別して伝えている。	【⑧-1 自己理解】 活動を振り返り、自分の特徴や良さを理解しようとしている。 【⑧-2 他者理解】 大和町の魅力を発信するための商品開発で他者の考えを受け入れて尊重しようとしている。 【⑨-1 主体性】 商品販売イベントに向けて、自分の良さを生かせる課題を選択し、取り組んでいる。 【⑨-2 協働性】 他者の良さを生かしながら協力してグループの課題の解決に取り組んでいる。 【⑩将来展望・社会参画】 今後も大和町の課題解決に向けて、自分ができることに取り組もうとしている。

	1	2	3
実		「自分たちの町を盛り上げるためには、どうすればよいのか？」	
内容	商品開発 【15時間】 ・今年のテーマは地域創成、大和町のためにどんなことを貢献していきたいかな？ ・大和町が盛り上がった状態とは？ ・どんな人々大和町や米粉のことを知ってもらいたいかな？ ・どんな商品が手に取ってもらえるかな？	イベントの実施 【25時間】 ・販売イベントに向けて、どんな準備をすればよいかな？ ・やった方がよいけど、自分たちでは難しいから専門家の協力が必要な準備はどれかな？ ・イベントにむけて、アドバイスをもらうためにイベント参加者にどんな視点で参加してもらえばよいかな？	イベント実施 【10時間】 ・イベントを受けて、本番で米粉や大和町のことをどうすればもつと伝えられるかな？ ・大和町が盛り上がったの？ ・この学習を通して、自分たちが成長した部分は？ ・この学習でやり残したことは？
手立て	・増田製粉さんからの依頼で取り組みを始める。 ・三原市や大和町の人口などのデータを示す。	・小学校5年生の取り組みを想起するための写真を提示する。 ・XY チャートを活用し、優先順位と効果の大きさを課題を整理した後、タイムチャートを活用し、計画を整理する。 ・クラウドファンディングのページ作成で、内容を分担して自分の興味がある項目を考える。	・年間を通して、サポートしていただいた地域法人おせっかいさんから生徒の肯定的評価と課題を投げかけていた。 ・やり残したことを記録に残し、後輩たちの取組の参考資料とする。
知		②	① ③
関	⑤⑥⑦	④-2	④-1
関	⑧-2 ⑨-2		⑧-1 ⑩
ひら	増田製粉株式会社 地域法人おせっかいさん 広島空港	READYFOR(ワットアップ・プロジェクト) 松原祐樹(NPO 法人ひろしま) FM みはら	広島空港 広島大学 広島三育学園

単元構想シート

単元構想

授業実践 評価

単元修正

大和中学校区単元構想シート

学年 中学校1年生	テーマ 地域創成	学習形態 学年総合・一部課題選択
単元名 米粉の商品開発を通して、大和町の魅力をたくさんの人に知ってもらい、大和町を盛り上げよう		
本質的な問い 「自分たちは大和町とどのように関わっていけば良いのか？」		
単元を終えた後の児童・生徒の姿 自ら課題を設定できるようになり、次なる課題解決に向けて、自ら探究する術を身に付けている。		
単元を始める前の児童・生徒の姿 地域の問題を解決したいという意欲はあるが、課題を自ら設定することが難しい。		

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
【①知識】 大和町の魅力発信の実現には、そこに存在する問題の解決に向けて、学校や地域が目的を共有して取り組むことの必要性を理解している。 【②技能】 米粉の魅力の発信活動(商品開発、商品販売イベント)を、目的や対象に応じた適切さで実施している。 【③探究的な学習のよさの理解】 大和町が抱える課題に対する学校と地域の取組についての理解は、探究的に学習してきたことの成果であることに気付いている。	【④-1 課題の設定】 プレイベントの反省を踏まえ、商品販売イベントに向けて必要なことを設定している。 【④-2 課題の設定】 大和町を盛り上げるための商品販売イベントに向けて何をすべきか見通しをもって計画を立てている。 【⑤情報の収集】 商品開発に必要な情報を収集する手段を選択し、種類に合わせて情報を蓄積している。 【⑥整理・分析】 アンケート結果および米粉の特徴から傾向を明らかにし、根拠をもってターゲットと商品のジャンルを設定している。 【⑦まとめ・表現】 事実(アンケート結果および米粉の特徴)と意見(自分たちの商品に対する考え)を区別して伝えている。	【⑧-1 自己理解】 活動を振り返り、自分の特徴や良さを理解しようとしている。 【⑧-2 他者理解】 大和町の魅力を発信するための商品開発で他者の考えを受け入れて尊重しようとしている。 【⑨-1 主体性】 商品販売イベントに向けて、自分の良さを生かせる課題を選択し、取り組んでいる。 【⑨-2 協働性】 自他の良さを生かしながら協力してグループの問題の解決に取り組んでいる。 【⑩将来展望・社会参画】 今後も大和町の課題解決に向けて、自分にできることに取り組もうとしている。

	1	2	3
貫	「自分たちの町を盛り上げるためには、どうすればよいのか？」		
内容	商品開発【15時間】 ・今年のテーマは地域創生、大和町のためにどんなことをして貢献していきたいかな？ ・大和町が盛り上がった状態とは？ ・どんな人に大和町や米粉のことを知ってもらいたいかな？ ・どんな商品が手に取ってもらえるのかな？	プレイベントの実施【25時間】 ・販売イベントに向けて、どんな準備をすればよいかな？ ・やった方がよいけど、自分たちでは難しいから専門家の協力が必要な準備はどれかな？ ・イベントにむけて、アドバイスをもらうためにプレイベント参加者にどんな視点で参加してもらえばよいかな？	イベント実施【10時間】 ・プレイベントを受けて、本番で米粉や大和町のことをどうすればもっと伝えられるかな？ ・大和町は盛り上がったの？ ・この学習を通して、自分たちが成長した部分は？ ・この学習でやり残したことは？
手立て	・増田製粉さんからの依頼で取り組みを始める。 ・三原市や大和町の人口などのデータを示す。	・小学校5年生の取り組みを想起するための写真を提示する。 ・XY チャートを活用し、優先順位と効果の大きさとで課題を整理した後、タイムチャートを活用し、計画を整理する。 ・クラウドファンディングのページ作成で、内容を分担して自分の興味がある項目を考える。	・年間を通して、サポートしていただいた地域法人おせっかいさんから生徒の肯定的評価と課題を投げかけていただく。 ・やり残したことを記録に残し、後輩たちの取組の参考資料とする。
知技		②	① ③
構築	⑤⑥⑦	④-2	④-1
構築	⑧-2 ⑨-2	⑨-1	⑧-1 ⑩
関係の構築	増田製粉株式会社 地域法人おせっかいさん 広島空港	READYFOR(クラウドファンディング) 松原裕樹(NPO 法人ひろしま) FM みはら	広島空港 広島大学 広島三育学園

単元構想

授業実践 評価

単元修正

大和中学校区単元構想シート

学年 中学校1年生	テーマ 地域創成	学習形態 学年総合・一部課題選択
単元名 米粉の商品開発を通して、大和町の魅力をたくさんの人に知ってもらい、大和町を盛り上げよう。		
本質的な問い 「自分たちは大和町とどのように関わっていけば良いのか？」		
単元を終えた後の児童・生徒の姿 自ら課題を設定できるようになり、次なる課題解決に向けて、自ら探究する術を身に付けている。		
単元を始める前の児童・生徒の姿 地域の問題を解決したいという意欲はあるが、自ら課題を設定することが難しい。		

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
【①知識】 大和町の魅力発信の実現には、そこに存在する問題の解決に向けて、学校や地域が目的を共有して取り組むことの必要性を理解している。 【②技能】 米粉の魅力の発信活動(商品開発、商品販売イベント)を、目的や対象に応じた適切さで実施している。 【③探究的な学習のよさの理解】 大和町が抱える課題に対する学校と地域の取組についての理解は、探究的に学習してきたことの成果であることに気付いている。	【④-1 課題の設定】 プレイベントの反省を踏まえ、商品販売イベントに向けて必要なことを設定している。 【④-2 課題の設定】 大和町を盛り上げるための商品販売イベントに向けて何をすべきか見直しをもって計画を立てている。 【⑤情報の収集】 商品開発に必要な情報を収集する手段を選択し、種類に合わせて情報を蓄積している。 【⑥整理・分析】 アンケート結果および米粉の特徴から傾向を明らかにし、根拠をもってターゲットと商品のジャンルを設定している。 【⑦まとめ・表現】 事実(アンケート結果および米粉の特徴)と意見(自分たちの商品に対する考え)を区別して伝えている。	【⑧-1 自己理解】 活動を振り返り、自分の特徴や良さを理解しようとしている。 【⑧-2 他者理解】 大和町の魅力を発信するための商品開発で他者の考えを受け入れて尊重しようとしている。 【⑨-1 主体性】 商品販売イベントに向けて、自分の良さを生かせる課題(招待状・ラジオ)を選択し、取り組んでいる。 【⑨-2 協働性】 自他の良さを生かしながら協力してグループの問題の解決に取り組んでいる。 【⑩将来展望・社会参画】 今後も大和町の課題解決に向けて、自分にできることに取り組もうとしている。

	1	2	3
貫	「自分たちの町を盛り上げるためには、どうすればよいのか？」		
内容	商品開発【15時間】 ・今年のテーマは地域創生、大和町のためにどんなことをして貢献していきたいかな？ ・大和町が盛り上がった状態とは？ ・どんな人に大和町や米粉のことを知ってもらいたいかな？ ・どんな商品が手に取ってもらえるのかな？	プレイベントの実施【25時間】 ・販売イベントに向けて、どんな準備をすればよいかな？ ・やった方がよいけど、自分たちでは難しいから専門家の協力が必要な準備はどれかな？ ・イベントにむけて、アドバイスをもらうためにプレイベント参加者にどんな視点で参加してもらえばよいかな？	イベント実施【10時間】 ・プレイベントを受けて、本番で米粉や大和町のことをどうすればもっと伝えられるかな？ ・大和町は盛り上がったの？ ・この学習を通して、自分たちが成長した部分は？ ・この学習でやり残したことは？
手立て	・三原市や大和町の人口などのデータを示す。 ・増田製粉さんからの依頼で取り組みを始める。 ・空港で実施したアンケート結果から、開発を進める商品を「大人受け」と「子供受け」の座標軸を用いて整理・分析する。	・販売イベントに向けて、確かな見通しを持てるように、小学校5年生の取り組みを振り返った後、計画を立てる。 ・宣伝方法を「自分たちでできる／協力者がいればできる」と「効果が大きい／小さい」の座標軸を用いて整理した後、タイムチャートを活用し、計画を整理する。	・年間を通して、サポートしていただいた地域法人おせっかいさんから生徒の肯定的評価と課題を投げかけていただく。 ・やり残したことを記録に残し、後輩たちの取組の参考資料および3年時の個人探究のテーマ設定につなげる。
知技		②	① ③
調査	⑤⑥⑦	④-2	④-1
調査	⑧-2 ⑨-2	⑨-1	⑧-1 ⑩
参画	増田製粉株式会社 地域法人おせっかいさん 広島空港	READYFOR(クラウドファンディング) 松原裕樹(NPO 法人ひろしま) 原田真弓(FM みはら)野村直行(デザイナー) 広島三育学院	広島空港 広島大学

PBLの考え方を取り入れた 総合的な学習の時間

小学校第4学年 探究×創造

大和認定こども園のみんなを
もっと楽しく、笑顔で元気にしよう

アナログゲームを創り、
そのよさを伝え、大和小のみんなをもっと元気にしよう



こども園での
アナログゲーム体験会の
実施



アナログゲームの製品化



アナログゲーム
交流会の実施

中学校第1学年 探究×地域創生

大和町の魅力をたくさんの人に知ってもらい、大和町を盛り上げよう



商品開発



プレイベントの実施



イベントの実施
2/22(土)10:00~12:00
広島空港

研究の成果と課題

生徒アンケート

質問項目	肯定的回答率（％）	
	7 月	12月
授業では、課題の解決に向けて自分で考え、自分から取り組んでいます。	65.9	81.6

教員アンケート

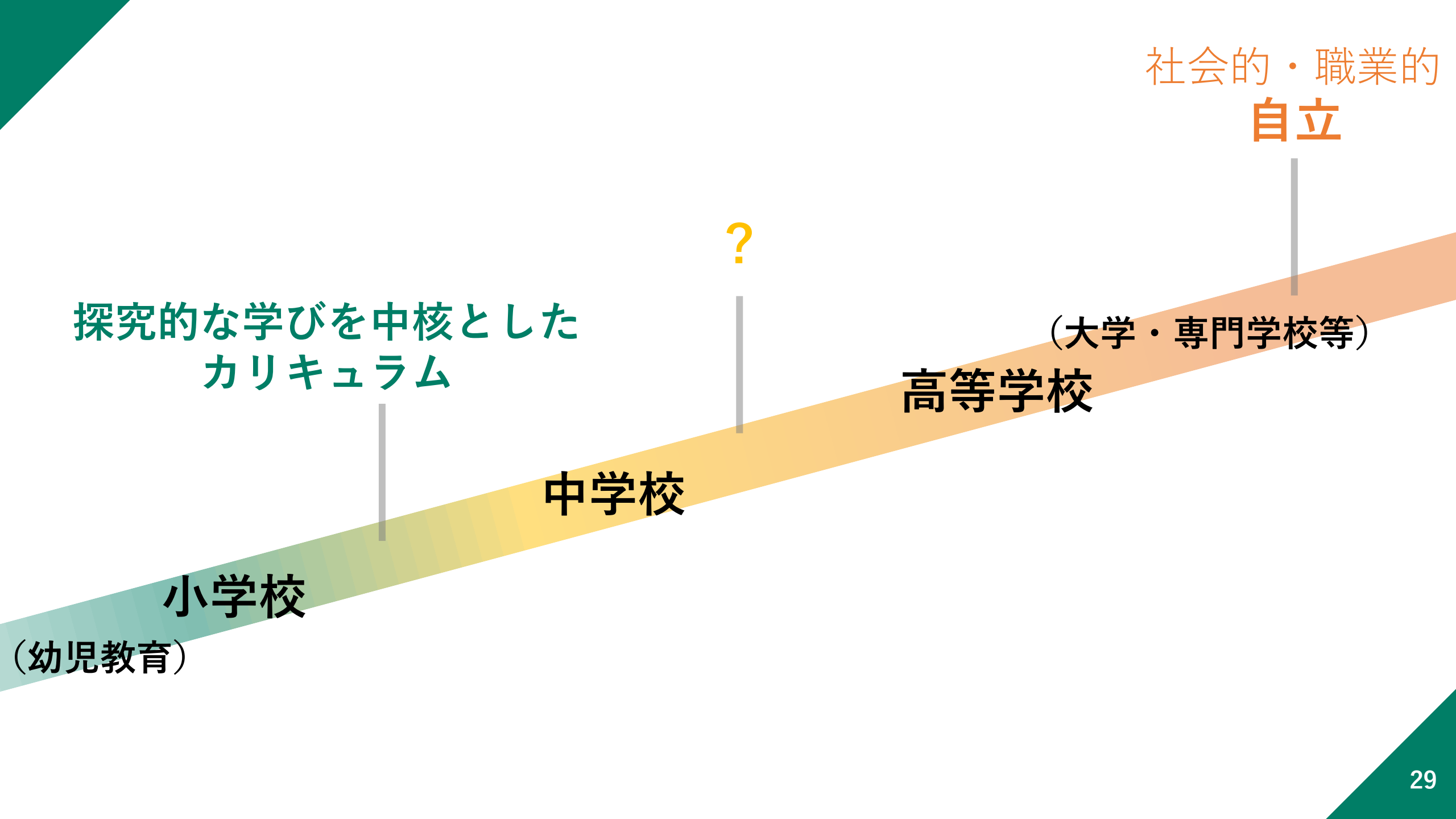
質問項目	肯定的回答率（％）
前年度と比較して、探究的な学びを意識して、総合的な学習の時間の授業を実施していますか？	100
生徒は、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいますか？（2月）	70

教員アンケート

質問項目	肯定的回答率 (%)
生徒は、総合的な学習の時間で 「課題の設定」をすることができますか？	60
生徒は、総合的な学習の時間で 「情報の収集」をすることができますか？	70
生徒は、総合的な学習の時間で 「整理・分析」をすることができますか？	70
生徒は、総合的な学習の時間で 「まとめ・表現」をすることができますか？	90

質問項目	肯定的回答率 (%)
あなたは、総合的な学習の時間で 「課題の設定」の指導と評価ができますか？	40
あなたは、総合的な学習の時間で 「情報の収集」の指導と評価ができますか？	80
あなたは、総合的な学習の時間で 「整理・分析」の指導と評価ができますか？	90
あなたは、総合的な学習の時間で 「まとめ・表現」の指導と評価ができますか？	70

今後の改善方策等



社会的・職業的
自立

?

探究的な学びを中核とした
カリキュラム

(大学・専門学校等)

高等学校

中学校

小学校

(幼児教育)

大和中学校区が考える自立と自律

自律

x

+

y

=

z

社会的・職業的
自立

課題を見つめ、目標を定めプロセスを考え、結果を出す

半自律

x

+

y

=

10

与えられた目標に対して、プロセスを考える

自立

4

+

6

=

2

与えられた作業を1人でできる状態

高等学校 総合的な探究の時間

(1) 探究が高度化し、自律的に行われることを意識する

小・中学校の総合的な学習の時間が、課題を解決することで自己の生き方を考えていく学びであるのに対して、総合的な探究の時間は、自己の在り方生き方と一体的で不可分な課題を自ら発見し、解決していくような学びを展開していくことを重視している。高等学校においてこのような生徒の姿を実現するためには、生徒がより洗練された質の高い探究に取り組む必要がある。質の高い探究とは、「探究の過程がより高度化する」ことや「探究がより自律的に行われる」と考えることができる。

高度化した探究とは、①探究において目的と解決の方法に矛盾がない（整合性）、②探究において適切に資質・能力を活用している（効果性）、③焦点化し深く掘り下げて探究している（鋭角性）、④幅広い可能性を視野に入れながら探究している（広角性）などの生徒の姿で捉えることができる。

また、自律的な探究とは、①自分にとって関わりが深い課題になる（自己課題）、②探究の過程を見通しつつ、自分の力で進められる（運用）、③得られた知見を生かして社会に参画しようとする（社会参画）などの生徒の姿で捉えることができる。

今、求められる力を高める総合的な探究の時間の展開（中学校編）

小中学校と高校の違い

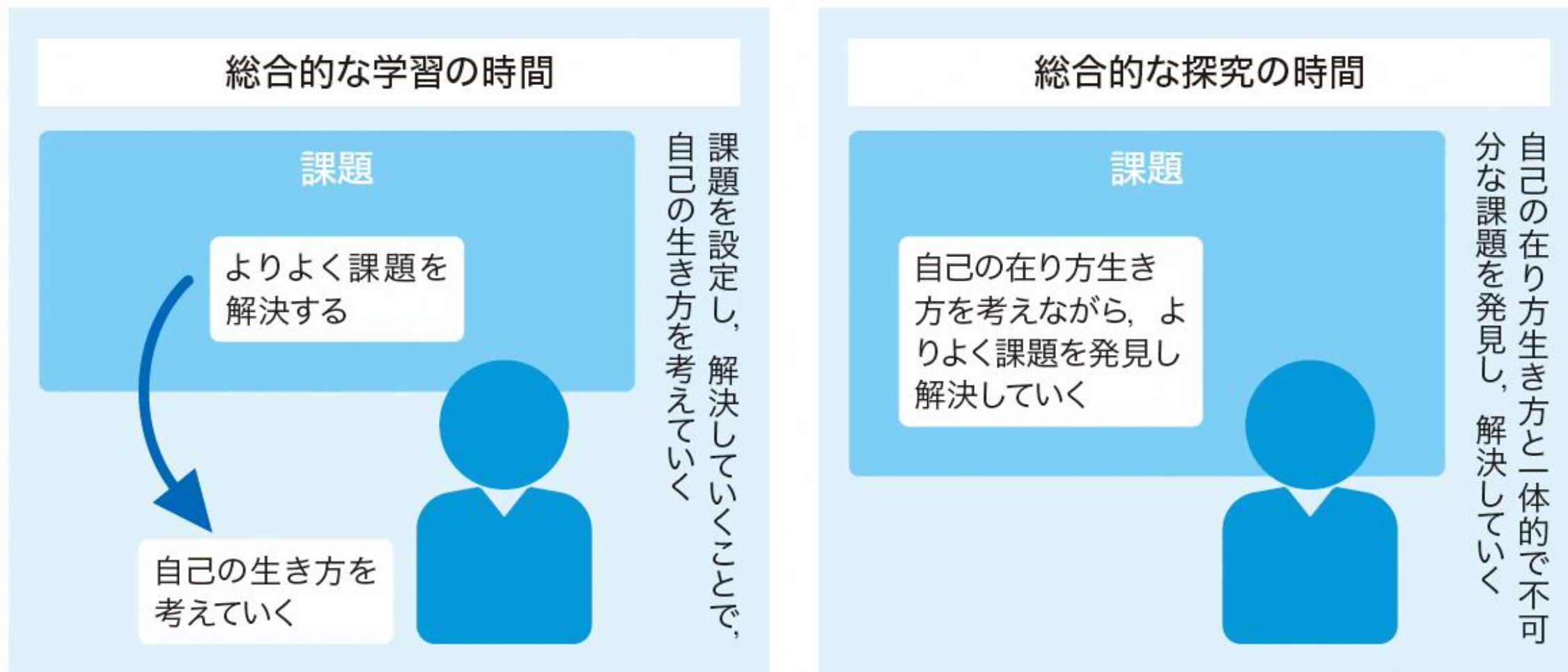


図4 課題と生徒の関係(イメージ)

今、求められる力を高める総合的な探究の時間の展開（高等学校編）

社会的・職業的
自立

?

探究的な学びを中核とした
カリキュラム

(大学・専門学校等)

高等学校

中学校

小学校

(幼児教育)

- ・ 高度化した探究
鋭角性、整合性、効果性、広角性
- ・ 自律的な探究
運用、社会参画、自己課題

大和中学校区が考える自立

課題の設定

X

運用

自らの力で
課題を更新

4

X

運用

自らの力で
課題を更新

興味・関心・得意

Y

自己課題

自分にとってより
深い課題

Y

自己課題

自分にとってより
深い課題

6

社会への還元
解決方法

Z

社会参画（PBL）

知見を活かして
社会に関わろうとする

Z

社会参画（PBL）

知見を活かして
社会に関わろうとする

Z

社会参画（PBL）

知見を活かして
社会に関わろうとする

社会的・職業的
自立

自立した学習者

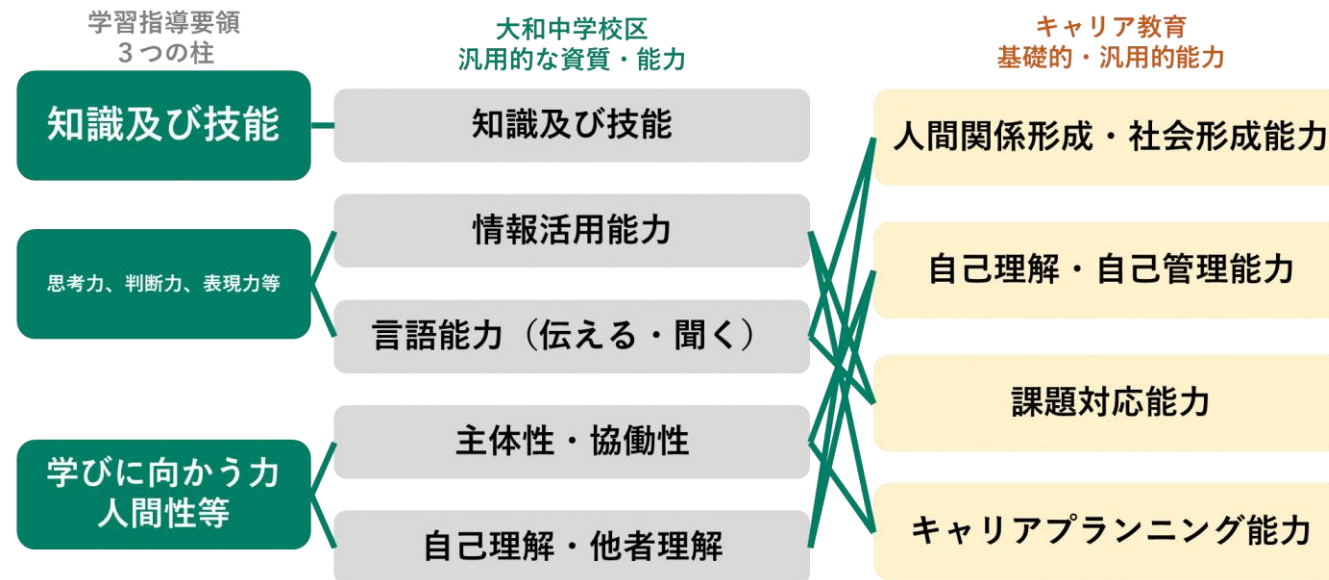
自律的な探究

探究×自律

自立した学習者の育成

～自律的な探究を中核としたカリキュラムの開発を通して～

課題の解決に向けて自分で考え、自分から取り組んでいる児童・生徒であり、本中学校区が育成を目指す資質・能力が身に付いた姿である。



仮説

探究的な学びを中核としたカリキュラムの開発をすることで、児童・生徒が自立した学習者になるであろう。

【探究的な学びを中核としたカリキュラム】

- ・ 自律的な探究・PBLの考え方を参考とした総合的な学習の時間の単元
- ・ 情報活用能力を軸とした各教科等と総合的な学習の時間のカリマネ
- ・ 自律的な探究につながる総合的な学習の時間の系統性のカリマネ

中学校区の 総合的な学習の時間の系統

大和中学校区の系統

	テーマ	学習形態	課題の設定	自律
小 3	地域	学年探究 ※部分的に グループ探究	教師の指導を受けながら課題を設定 ※教師の意図を含んだ課題の設定から、 児童・生徒による課題の設定に徐々に移行	運用 社会参画 自己課題
小 4	人			
小 5	産業			
小 6	夢、未来			
中 1	地域創生			
中 2	職業	グループ探究		
中 3	社会貢献	個人探究	生徒自身が自己の在り方生き方と一体的で 不可分な課題を自ら発見	
高校	高度化した探究 ・鋭角性 ・整合性 ・効果性 ・広角性 自律的な探究 ・ 運用 自らの力で課題を更新し続けている ・ 社会参画 探究を通して得られた知見を活かして社会に関わろうとしている ・ 自己課題 取り組んだ課題が自分にとってより深い課題となり、自身の進路選択にもつながっている			

(県) 自己を認識し、自分の人生を選択し、表現することができる子供の育成
(市) すべての子供が自ら考え、行動する学び～子供同士の学び合いの充実～

(大和中学校区) 自立した学習者の育成

～自律的な探究を中核としたカリキュラムの開発を通して～

大和中学校区

育成を目指す資質・能力

知識及び技能

情報活用能力

言語能力

主体性・協働性

自己理解・他者理解

キャリア教育
基礎的・汎用的能力

人間関係形成・社会形成能力

自己理解・自己管理能力

課題対応能力

キャリアプランニング能力

各教科

探究 × 自律

情報活用能力

情報の収集

インターネット、図書館、
配布物、インタビュー・・・

整理・分析

時系列、地図、グラフ化、
テキストマイニング、KJ法・・・

総合的な学習の時間

個別最適な学び・協働的な学び、R80、金のルール、集団作りなど